

介護専門職の総合情報誌

おはよう21

OHAYO21



特集 実践! アクティビティ 意欲を引き出す活動づくり

在宅特集
利用者と一緒にいる生活援助の知恵



新連載スタート!

今こそ求められる 介護専門職のリハビリテーション「力」 塩中雅博
事例で学ぶ 介護現場のリスクマネジメント 谷田寿実

好評連載

介護に役立つ薬の知識 脇屋和美
ヘルパーのための簡単レシピ 大野紋矢子
タクティールケアことはじめ 木本明恵

おはようウォッチング
特別養護老人ホームレジデンシャル常盤台 (神奈川県横浜市)

第25回介護福祉士国家試験予想問題
ころとからだのしくみ



佐原の文庫 4階に設けられた図書室



こもれびの径と名付けられた裏山の散策路。みなどみらい方面の眺望がよく、家族と過ごすにも快適



暮らしやすくしつらえた渡辺雪江さんの居室



家族が頻繁に訪れる



いつもおしゃれて 左から、松田ミサオさん、市川静子さん、蔵田喜代子さん

特別養護老人ホーム・レジデンシャル常盤台が開所したのは、震災の衝撃も冷めやらぬ平成23年の4月のこと。JR横浜駅からバスで15分程度の丘陵地帯の一角にあり、周囲の丘にはまだ畑地が広がり、どことなくのど

自分の生活を失わない

都市部で高齢化が急速に進む中、横浜市では平成15年度より待機者ゼロ作戦を展開して、特養の増設を進めてきました。一時は年間900床(10施設程)を目標とするなど、急速な整備を図っています。介護施設ニーズが高いといっても、どこでも入所できればよいとはなりません。今日の家族は、質を重視した厳しい消費者の目をもっています。新設の施設では、こうした利用者家族の要求を満たして軌道に乗せるのは容易なことではありません。

医療的ケア、看取りを希望する利用者が多くなっている。施設での看取りは介護を高めることにつながると思う



施設長の高橋好美さん

三味線からイベントの司会、家族との調整など、なんでも器用にこなす。ユニナ形式の利点を引き出すケアをしていきたい



副施設長の外池永尚さん

かな雰囲気を残しています。施設は4階建てで1階には事務室やパブリックスペースとなる多目的ホール(普段は喫茶スペースに利用)、厨房等があり、2階以上が居室で、各階とも10名ずつ4つのユニットで構成されています。居住階を訪問してすぐに気付くのは、皆さんおしゃれで、それぞれに豊かに居室をしつらえていること。要介護であっても、認知症があっても、私は私。施設にいても自分を失わずに生活をしていくのだという意識が伝わってきます。

住宅の延長としての施設を望んでいるようです。三々五々訪れる家族の方たち。各居室やセミパブリックとなる居間で、利用者ひとときを過ごして日々の情報を交換していきます。その一人、松田ミサオさん(97歳)の部屋には琴が立てかけてあります。娘さんの趣味で、来所のために弾いてくれるのだそうです。居室から漏れる琴の音に、居間にいる利用者職員も聴きほれているとのこと。平成24年で満100歳を迎えた市川静子さんは、いつも身なりを整えておしゃれをしたい方。その気持ちを失わずに、毎日過ごしています。家族も、「大正元年の生まれで、この年代の人らしく、人前では容姿を整えることが当然のことと、家でもいつも綺麗にしていた」と言います。この日は、施設の職員から敬老のお祝いにと贈られたベルベットのスカートをつけて、撮影

おはよう ウォッチング

いつもおしゃれに 私は私でありたい

社会福祉法人 育明会 特別養護老人ホームレジデンシャル常盤台
神奈川県横浜市



食材を皆で仕込むところから



これで3杯目



つい笑顔になる



昔取った杓柄。カラオケで自慢の喉を披露



胃ろうで飲めなくとも、雰囲気味わいたい。飲んでるのは奥さん



誕生日のお祝いケーキと寄せ書きのカード

にに応じていただきました。

渡辺雪江さん(95歳)は、居室の植木鉢が自慢のひとつ。息子さんが持ってきてくれたのだと部屋の中を見せてくれました。調度品の配置にセンスの良さがうかがわれ、落ち着いた雰囲気醸し出しています。

一人ひとり自ら考える土壌が質を高める

「私は私でありたい」。そうした利用者の思いを成り立たせている背景のひとつに、利用者家族の生活の質への要望もあります。自由でいたい、拘束はしないでほしい、ほうつて置かれることのないようにしてほしい、入浴を欠かさず綺麗で清潔にいてほしい、病気にも対応してほしい、看取りも行つてほしい等々。これらの声は、施設開設前に、入居を申し込んでいた家族の要望を聞く会を設けて問われたものです。入居後に様々な声が上がると、「まず家族の思いを受け止め、施設の介護でできること、できないことをよく理解してもらったうえで、利用してもらいたい。また家族にも利用者を支えてほしい、頻繁に訪問して利用者とお話をしてほしいなど、双方の希望を伝え合い理解を図つた」と施設長の高橋好美さん。多い日には50名以上も頻繁に家族の訪問があるのも、こうした理解を図つたためでしょう。

開設から1年半。いまでは利用者が落ち着いて日々を過ごしていますが、3か月で満床にもつていったこともあり、「最初は『待つてください』後で」ばかりを行っていました。

隔週で開かれる民謡クラブにて



講師を務める大塚千代美さんは、ボランティアのベテラン。歌で声を出すことは呼吸を良くし身体活動を活性化させる。1時間も歌うと汗ばんでくる



花笠音頭で幕開け。三味線の伴奏で調子をとっていく。奏者は大塚さんから手ほどきを受けた職員

だったと高橋施設長が振り返ります。高橋さんは、座学での講義に際して、まずは介護という職業が社会においてどのような意味があるのか、今日の介護に何が求められているのか、介護とい

地域と共にある施設に

う仕事に臨む若い職員の意識を確立することに努めたといえます。そのことがあつて、ただ指示を仰ぐのではなく、自らそして職員同士が研鑽しながら考え取り組む姿勢ができたとのこと。それが馬場さんの言葉にもつながっているのです。

モデルとなるユニットケアの考え方には、パブリックスペースが組み込まれていますが、地域交流の接点として活かされている施設は少ないのが現状です。それは地域に出て行き、地域に働きかける取り組みがないことでもあります。施設長の高橋さんは、施設の位置する保土ヶ谷区常盤台北部自治会に働きかけ、防災面での協力を仰ぎながら地域資源を施設に呼び込む働

きかけを行いました。その声に応えたのが自治会長高橋文伸さん。「自治会として、震災などの緊急時には施設を守る役割もあります。施設も地域にあつて、地域住民から遠い存在であつてはいけないと思い、自治会としても施設の利用をさせてもらっています」と高橋さん。施設の夏祭りに自治会の用具を貸し出し出店に協力して、住民と子ども夏祭りを楽しんでいきます。また自治会の総会などに施設の多目的スペースを利用し、子ども会でもクリスマスのイベントを行う予定です。さらには「ミニSLを走らせて、子どもたちに喜んでもらえれば、入居しているお年寄りも楽しめる」との計画も持ち上がっています。

この多目的スペースは普段はカフェになっていて、施設ではここを様々なイベントの会場にも当かりで、家族から強く指摘を受けた」というのは3階フロアスタッフの馬場裕之さん。馬場さんは大学卒業後にすぐ新人として入ったのですが、それまで全く介護とは縁がなかったといいます。ですが、「どうしたら改善できるか、スタッフ全員で懸命に対応を考えたことで、団結心が生まれた」といいます。オープンに当たって、ほとんどが新人職員であつたレジデンシャル常盤台では、母体となった老健施設で実地研修を行い、介護福祉士養成のベテランの教員から実技の指導を受けてはいたので、それでも最初は混乱があつたのです。しかし、「新人の職員同士が施設を良くしていく」との気概が強く「馬場さん」、そのことが短期間で一定の水準まで質を高めることができた要因



保土ヶ谷区常盤台北部自治会会長の橋本文伸さん

子どもの自治会は高齢化率が高いので、介護の問題は自治会としても様々な取り組みをして高齢者の社会参加を促しています



馬場裕之さん



平尾麻奈美さん



新谷野乃花さん



EIDスタッフの方々
レジデンシャル常盤台では、食事を作る、食器を洗う、掃除をする、シーツ交換や衣類の洗濯といった、直接利用者にかかわらなくとも行える作業的部分を非常勤職員が専門に担っている。スタイルも整えて名付けて「キッチンEID」「クリーンEID」「リネンEID」。利用者への対応を手伝うことも

Profile



特別養護老人ホーム
レジデンシャル常盤台
〒240-0067
神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台74-7
TEL. 045-348-8001
開設 ● 平成23年4月1日
定員 ● 110名(平均要介護度3.7)、
ショートステイ10名
職員構成 ● 施設長、副施設長、事務長、
看護職5名、介護職(常勤44名、非常勤47名)、栄養士1名、非常勤スタッフ4名